

令和 8 年 第 5 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和8年4月27日（月）

開会午後1時30分、閉会午後1時56分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1 番	大西 ゆかり	2 番	松岡 理	3 番	坪池 宏
4 番	黒田 卓	5 番	牧田 和樹	教育長	廣島 伸一

IV 説明出席者

教育次長	矢野 康彦
教育次長・教育みらい室長	田中 宏育
教育次長	初田 正樹
参事・教育企画課長	森安 祐成
教育参事・教育みらい室小中学校課長	木下 貴子
教育参事・教育みらい室県立高校課長	宮池 秀洋
教育参事・教育みらい室特別支援教育課長	魚津 直美
参事・教育みらい室県立高校改革推進課長	丸田 祐一
生涯学習・文化財課長	中川 武志
教職員課長	水上 優
保健体育課長	前川 秋人
教育企画課課長（ICT 教育推進担当）	五十嵐 佳美
教育みらい室課長（特命担当）	江上 有紀
教育みらい室課長（児童生徒支援担当）	金場 安史
教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）	岩田 理恵子
生涯学習・文化財課課長（青少年・家庭成人教育担当）	小川 理香
保健体育課課長（食育安全担当）	川田 康弘

V 傍聴人数 0人

VI 会議の要旨

午後1時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和8年3月5日開催の令和8年第3回富山県教育委員会会議録
令和8年3月18日開催の令和8年第4回富山県教育委員会会議録
会議録閲覧
廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第16号 富山県教育委員会行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則一部改正
の件

教育企画課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第17号 令和9年度高等学校入学者選抜における氷見高等学校での全国募集の実施の件
教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第18号 博物館の登録に関する告示の件
生涯学習・文化財課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

- (1) 臨時代理について（富山県行政管理規程廃止の件）
教育企画課長から説明した。
- (2) 公立小学校及び公立中学校の設置について（富山市）
教育みらい室小中学校課長から説明した。
- (3) 公立小学校の廃止について（上市町）
教育みらい室小中学校課長から説明した。
- (4) 国の登録有形文化財（建造物）の登録について
生涯学習・文化財課長から説明した。
- (5) 令和8年度富山県公立学校新規採用教員配置状況について
教職員課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議事

○議案第17号関係

〔坪池委員〕

・今年の1月に教育警務委員会の視察で氷見高校を見てきたが、地方創生のモデルの事例であり、コーディネートや地域協働といったことも含めて、全国の先進的な取り組みと言って良いと考えている。教育委員会でも視察に行つて良いのではないかと考えているし、加えて、研究する対象になるのではないと思う。地域との関わりについて言うと、有磯高校と氷見高校が再編となったときから一貫してやっていることで、歴史もある。教育委員会として研究していけば良いと思っている。

〔牧田委員〕

・全国募集については全く異論はないが、たとえば県外の知り合いに中学3年生のお子さんがいたら、我々が氷見高校をどのように薦めたら良いのか、「HIMI（ひみ）学」を悪く言うわけではないが、これだけでは弱い気がする。南砺平高校ではうまくいっているということだが、個人的な認識では、南砺平高校と氷見高校は性格が違う学校と思っている。子どもたちの心をつかむキャッチフレーズは何かあるか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

・本日議決いただければ、今後全国のイベント等で南砺平高校と氷見高校の令和9年度の募集について強くアピールをしていきたいと思っている。今、ちらしの作成について、南砺市、氷見市とも連絡をとりながら検討を進めている。その中で、何か強くキャッチフレーズ的にアピールできることについても検討し、全国にそういったものをしっかりアピールできるようやっていきたい。

〔教育長〕

・教育委員会の場でそういった意見が出ることはごもっともである。全国に訴求できるものは何か、目

指すものが何かということを開示した上で、逆にそれが2～3年後に実現できているのかの検証が必要になってくるということかと思う。ここはまた改めて私どもで検討させていただきたい。

〔大西委員〕

- ・氷見市も南砺市も、富山県内でもとても魅力的なところだと思う。全国募集については賛成するが、私が気になったのは、生徒の生活支援体制の部分である。男女問わず生徒さんが応募してこれれると思うが、元々市内民間会社の旧社員寮を改修し使用されるところのことだが、男子生徒、女子生徒のそれぞれの生活のエリアをしっかりと分けるところは分けるというようにされているのか。高校1年生で親元を離れ、生活の場をこの宿舎に移すわけなので、精神面でのサポートも必要だと思う。氷見市に任せるのか、県からもアドバイス等を行うのか。特に女子生徒については、異性の世話人の方だと言出しにくいことや、そもそも問題と感ずること自体を内緒にになってしまうこともあろうかと思うが、そのあたりをお聞きしたい。

〔教育長〕

- ・今分かっていることについてどうか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・氷見市からは、男女別々の入り口になるような形で実施すると聞いている。今後、世話人の方も設置されるとともに、資料にもあるようにコーディネーターを新たに採用し、全国募集の生徒へのサポートも行っていくと聞いている。これはやはり氷見高校も一緒になって検討を進めてきた結果であるということなので、今後も高校も関与しながら、生徒への生活支援体制もしっかり図られるように進めていければと思っている。

○議案第18号関係

〔大西委員〕

- ・今の説明では、令和10年3月31日までに再登録が必要ということだが、富山県内にある博物館の全体の数の中で、再登録の進捗をお聞きしたい。

〔生涯学習・文化財課長〕

- ・改正前の登録博物館は35館で、現在9館まで改正法に基づく登録が進んでいる。期間的には折り返しを過ぎたところで、こちらのほうとしては、来月開催される県の博物館協会の総会等の場を活用し、登録制度に関する説明を行う等、改正法での登録について周知を行っていきたいと考えている。

〔大西委員〕

- ・博物館で、改正に対応するのに苦労していて、なかなか進まないという悩み等もあるのか。

〔生涯学習・文化財課長〕

- ・改正前では形式的な要件で登録ができていたが、たとえば法改正に伴って、館によっては防災対策や施設の整備が必要になってくるところがある。その点に関して時間を要しているところもあると思っているので、今後周知等に努めていきたい。

○報告事項(5)関係

〔牧田委員〕

- ・新規採用教員について、昨年度の新卒者は何人か。

〔教職員課長〕

- ・昨年度は採用者が全体で355人いて、そのうち新卒者は214人である。

〔牧田委員〕

- ・新卒者の割合はどうか。

〔教職員課長〕

- ・昨年度は 60 パーセント、今年度は 65 パーセントである。

午前 1 時 56 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。